

# 教宣 せぶん

## あ、加藤さんだ！

今朝、「みのもんたの朝ズバッ！」を見ていると、ほんの一瞬ですが、私たちのたたかいをすすめていただいている加藤弁護士の姿が映りました。思わず「あ、加藤さんだ」と叫んでしまいました。ちょうど、法廷が映し出されている場面で、私たちの裁判同様、原告席に多くの原告が入り、傍聴席にもたくさんの方がいる様子がテレビ画面から伝わりました。このニュースは国鉄分割・民営化に伴いJRに採用されなかった全動労の組合員の組合差別を訴えた裁判を伝えたもので、東京地裁が組合の所属による差別的な取扱いがあったことを認め、被告である鉄道建設・運輸施設整備支援機構に、原告一人550万円、計3億2000万円の慰謝料などの支払いを命じる判決を下したというものです。しかし、機構側は即日控訴、原告側も本来受け取れるはずの賃金などの賠償が認められなかったため控訴する方針だと伝えていました。

私がビックリして大声を出したせいで、朝食を共にしていた家族も一斉に画面を注目しました。ビラ配りや手紙など、家族にも協力してもらっているこのたたかいの裁判部分の雰囲気少しでも伝わったと思います。また、加藤さんだけではなくすべての弁護団の先生方に言えることですが、私たちのたたかいを精力的に、献身的にすすめて下さっている一方で、こんなに大きな裁判も同時にすすめていたことがわかり、あらためて頭が下がる思いでした。

「朝ズバッ！」は、次にハンドボールのアジアオリンピック予選が再び日本と韓国の間で行われるというニュースに移りました。そういえば先日の中労委での証人尋問で、会社側の大塚証人を加藤さんが反対尋問する場面がありました。前執行部が全損保からの脱退を組織決定したとして、当時の日動経営は、即座に社長も出席する中央経営協議会を開き、全損保規約に則って脱退されたものかどうなのかも吟味せず、さらに言えば全損保規約すらまったく理解していないにも関わらず、片方の話しは一を聞いて百まで理解し、片方の話しはまったく聞く耳を持たず、半年もの間、交渉すら持たなかったという、差別的な対応がなされた事実が明らかになりました。大塚証言を聞いていて、審議官にもまさに東京海上日動社における「中東の笛」の実態が明確に伝わったはずです。

「中東の笛」に対しては、世界的な世論のバックアップで、予選再戦という正義の鉄槌が振るわれました。以前、加藤さんが私たちの前で話してくれた言葉を思い出します。「しっかりたたかって、正義が勝つことを若い弁護士にも見せてあげたい」。当社経営が吹く「中東の笛」に対し、さらに果敢に立ちむかっていきましょう。